



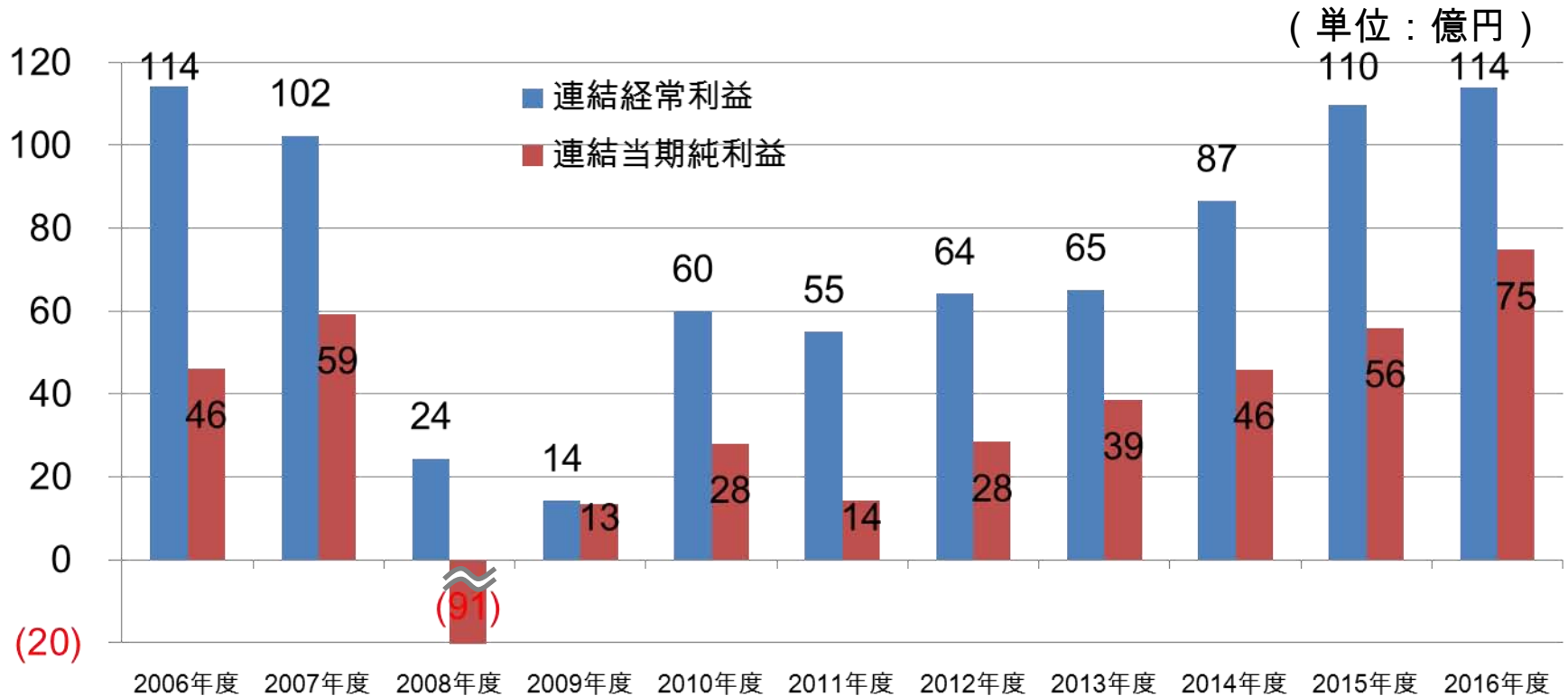
日東紡グループ 2016年度 決算説明会

本資料の取り扱いに関する注意事項

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。

連結経常利益、連結当期純利益の推移

- 連結経常利益および連結当期利益は、5期連続増益を達成
- 連結経常利益は過去最高水準の114億円規模を達成
- 連結当期純利益は9期ぶりに過去最高を更新(59.3億円→74.8億円)



業績概要（連結決算） ①PL・CF

（単位：億円）

	2014年度	2015年度	2016年度	前年比 増減
売上高	902.2	862.0	833.2	▲28.8
営業利益 (%)	88.9 (9.9%)	108.9 (12.6%)	111.5 (13.4%)	2.6 (0.8%)
経常利益 (%)	86.6 (9.6%)	109.7 (12.7%)	114.0 (13.7%)	4.3 (1.0%)
特別損益	▲3.7	▲22.4	▲9.9	12.5
親会社株主帰属 当期純利益	45.9	56.0	74.8	18.8
総資産経常利益率	6.1%	7.6%	8.1%	0.5%
自己資本利益率	6.8%	7.6%	9.8%	2.2%
営業キャッシュフロー	147.4	166.7	110.3	▲56.4

2015年度：在庫適正化

2016年度：退職年金基金追加拠出

業績概要（連結決算） ②BS

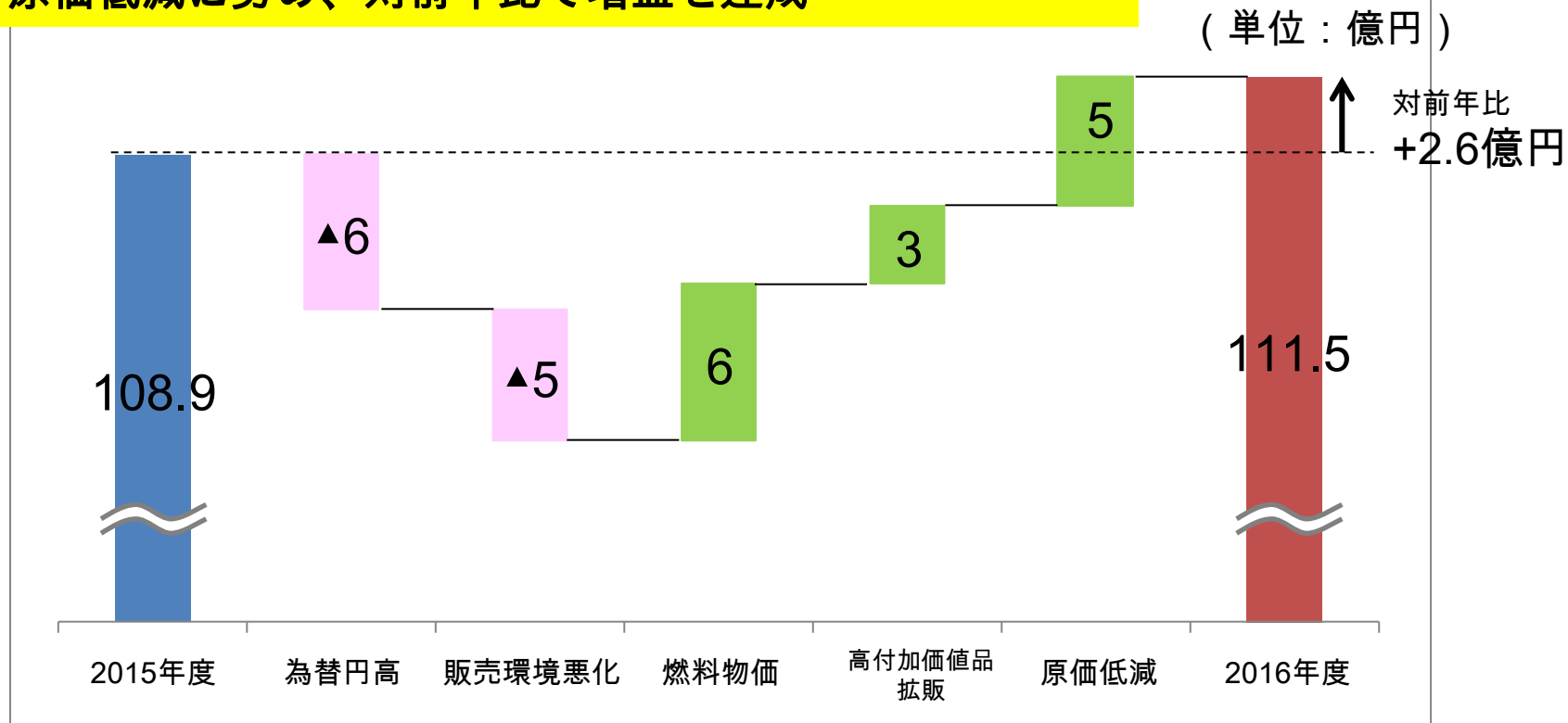
（単位：億円）

	2015年 3月末	2016年 3月末	2017年 3月末	増減
総資産	1,459	1,427	1,401	▲ 26
棚卸資産	229	211	214	3
純資産	732	754	771	17
（利益剰余金）	308	354	363	9
NET有利子負債	183	147	91	▲ 56
自己資本比率	49.6%	52.3%	55.2%	1.0%

減価償却費	46	46	41	▲ 5
設備投資	48	44	20	▲ 24

営業利益 対前年同期比 増減

円高をはじめ販売環境が悪化する中、高付加価値化、原価低減に努め、対前年比で増益を達成







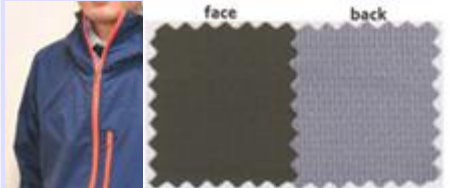
	2014年度	2015年度	2016年度	差 (前年同期比)
為替 [円 / 米ドル]	109.19	120.78	108.76	12.02 円高
トバイ原油 [米ドル / BBL]	105.9	68.0	40.4	27.6 \$ 下落

事業セグメント別業績

(単位 : 億円)

	2014年度		2015年度		2016年度		増減 (前年比)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
繊維	59.7	▲1.3	55.6	▲4.8	49.5	▲3.6	▲6.1	1.2
原織材	260.9	29.0	268.0	48.0	244.4	52.2	▲23.6	4.2
機能材	188.6	32.5	177.9	29.5	180.2	28.3	2.3	▲1.2
設備材	221.2	10.9	218.3	18.2	217.0	19.2	▲1.3	1.0
環境・ヘルス	157.6	21.7	123.8	26.6	124.4	28.1	0.6	1.5
その他	14.0	2.5	18.1	0.8	17.4	1.3	▲0.7	0.5
調整額	-	▲6.6	-	▲9.5	-	▲14.1	-	▲3.8
計	902.2	88.9	862.0	108.9	833.2	111.5	▲28.8	2.6
(売上高営業利益率)	9.8%		12.6%		13.4%		0.8%	

繊維事業 製品紹介

事業	主な製品形態	特徴	製品写真
原糸	C・S・Y (コアスパンヤーン)	ポリウレタン等の長繊維に綿等の短繊維を巻き付けてカバーした製品。ストレッチ素材の先駆け。多層構造糸製造技術によりコアとカバー素材を組み合わせ、吸湿発熱・速乾冷感・軽量等の機能と肌触感を合わせた商品を提案。	
	ふきん	吸水性・即乾性に優れ、毛羽が付きにくい。暮らしの手帖社との開発から50年を超えるロングセラー商品。 2015年グッドデザイン・ロングライフデザイン賞受賞。	
芯地	芯地	衣服の保形や寸法安定性を付与するために表地の裏面に貼る隠れた機能素材。表地の素材感を活かし、シルエットを美しく演出。婦人用では国内シェアNo.1。	
	接着テープ	芯地を貼りにくい衿・袖・ポケットなどの接合部分の補強、縫製時の作業性向上などに使用される。あらゆる形状に対応し、表地素材と同一素材のラインナップをもつ。	
	裏材(裏地)	日東紡が得意とする極薄織物接着技術を応用、裏地としての使用も可能としている。採用例として透湿防水フィルムをラミネートしたスポーツ衣料素材があげられる。	

繊維事業 業績

主力の芯地販売低迷。「日東紡の新しいふきん」を始めとする二次製品販売は好調に推移し、インターネット販売を開始する等、販路拡大に向けた取り組みを強化。

■ 芯地

国内では、当社シェアの高い大手アパレル婦人服向け極薄芯地の数量が伸びなかった。また中国では日系向け、ローカル向け販売数量が減少し、輸出も伸長せず、減収となったが、前期は在庫処分損が計上されたため、今期の損失は縮小した。

■ 原糸

暮しの手帖社と共同開発の「日東紡の新しいふきん」の販売増、高付加価値品New CSY(多層構造系)の販売強化により、好調に推移。ニッポー新潟(株)の紡績糸を用いた今治認定の高級タオル「BELOVED PURE」のインターネット販売を開始。原糸、二次製品の販売好調により収支均衡のレベルまで改善した。

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	増減
売上高	55.6	49.5	▲ 6.1
営業利益	▲ 4.8	▲ 3.6	1.2

グラスファイバー事業 製品紹介

製品形態	特徴	製品写真	主な用途	事業セグメント
ロービング	ガラス繊維を撚りを加えずに束ねた製品		ユニットバス 浄化槽	原織材
チョップドストランド	ガラス繊維を細かく切断した製品		スマートフォン、PC等の筐体 自動車向等コンポジット材料	原織材
ヤーン	ガラス繊維に撚りを加えた製品		ガラスクロス	原織材
ガラスクロス	ヤーンをクロス状にした製品		プリント配線基板 制振材、テント膜 道路補強材	機能材 設備材 設備材
グラスウール	ガラス短繊維を綿状にした製品		住宅、非住宅	設備材

原織材事業 業績

円高進行による輸入品との競争激化やスマートフォン・タブレット向け当社高付加価値品(複合材向け)の一時的な需要鈍化の影響で、強化プラスチック用途の販売が低迷したことにより減収となったが、高付加価値ガラスヤーンの生産能力増強、生産効率化、燃料コスト改善を推進した結果、増益となった。

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	増減
売上高	268.0	244.4	▲ 23.6
営業利益	48.0	52.2	4.2
(利益率)	(17.9%)	(21.4%)	(+3.5%)

機能材事業 業績

円高による厳しい販売環境の下、高機能サーバーや基地局向け等の電子材料用途の需要に対応し、高付加価値品へのシフトをさらに推進した。

また、スマートフォン市場は成長鈍化が見られるものの、低グレード品の高機能化の流れの中で、当社製品に底堅い需要があり、ゲーム機等の高機能画像処理用途も堅調に推移したことにより、前年同期並みの収益を確保した。

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	増減
売上高	177.9	180.2	2.3
営業利益	29.5	28.3	▲ 1.2
(利益率)	(16.6%)	(15.7%)	(▲0.9%)

設備材事業 業績

設備・土木用途向けのガラスクロスの販売は伸び悩むも、住宅向け断熱材の堅調な需要に対応し、シェア拡大や新規顧客獲得に努めた。

物流費をはじめとするコストアップはあったものの、生産計画精度の向上による生産効率化や、原料、燃料の原価低減を進めたことにより、前年同期並みの収益を確保した。

(単位:億円)

	2015年度	2016年度	増減
売上高	218.3	217.0	▲ 1.3
営業利益	18.2	19.2	1.0
(利益率)	(8.3%)	(8.9%)	(+0.6%)

環境・ヘルス事業 製品紹介

セグメント	特徴	製品写真	主な用途
メディカル	生化学系・血液学系・免疫血清学系の体外診断薬事業を展開。免疫系試薬や骨粗鬆マーカーに強み。		<ul style="list-style-type: none"> ・肝機能、コレステロール、中性脂肪等の測定 ・炎症、自己免疫性疾患、栄養状態等の測定
SC (スペシャリティ・ケミカルス)	特殊な重合技術を用いて新しいポリマー素材を開発し、金属捕集剤など様々な分野への用途開発を推進。		<ul style="list-style-type: none"> ・金属加工用助剤 ・医薬品原料 ・水処理剤 ・製紙用助剤 ・消臭剤 ・ハードコート、表面保護剤
飲料	清涼飲料水とペットボトルの生産。プライベートブランドを中心に多品種小ロット生産に強み。		<ul style="list-style-type: none"> ・茶系飲料 ・スポーツドリンク ・果汁入り飲料 ・ベビー飲料 ・大手スーパー ・ドラッグストア

環境・ヘルス事業 業績

免疫系診断薬を中心に国内での売上が安定的に推移し、スペシャリティケミカルス製品の海外向けの新規案件受注などに注力。飲料分野では、多品種小ロットの需要に対応した。この結果、前年同期並みの収益を確保した。

■ メディカル

当社の強みである免疫系試薬・骨粗しょう症マーカー等を中心に新規顧客の獲得に注力、原価削減とあわせ、収益性の向上を図った。

■ スペシャリティケミカルス

電子材料関連用途等の堅調な国内需要に加え、海外向け医薬品原料用途の新規案件の受注に注力。

■ 飲料

西日本地域を中心とした猛暑等により売上が堅調に推移。レジン価格の低下による原価低減や多品種小ロットへの対応が、収益性の向上に寄与。

(単位: 億円)

	2015年度	2016年度	増減
売上高	123.8	124.4	0.6
営業利益	26.6	28.1	1.5
(利益率)	(21.5%)	(22.6%)	(+1.1%)

主な財務データ推移

	146期	147期	148期	149期	150期	151期	152期	153期	154期	155期	156期
	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
RO S (売上高営業利益率)	8.2%	7.5%	2.2%	2.5%	7.7%	7.2%	8.1%	7.6%	9.8%	12.6%	13.4%
RO A (総資産経常利益率)	7.1%	6.4%	1.6%	1.0%	4.7%	4.2%	4.9%	4.8%	6.1%	7.6%	8.1%
RO E (自己資本利益率)	6.7%	8.2%	-14.2%	2.5%	5.2%	2.6%	5.0%	6.3%	6.8%	7.6%	9.8%
自己資本比率	42.5%	47.3%	37.2%	41.2%	42.4%	42.0%	44.8%	45.9%	49.6%	52.3%	55.2%
ネット有利子負債 /営業CF倍率	1.4	0.5	11.5	28.4	1.9	5.7	4.8	2.1	1.2	0.9	0.8
1株当たり 当期純利益	18.7	24.0	-38.3	6.4	14.1	7.2	14.3	19.4	23.0	28.1	37.7
1株当たり 配当額	3.0	4.0	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	6.0	7.0
配当性向	16.1%	16.7%	-10.4%	62.6% ※1	35.5% ※2	69.5%	35.1%	25.8%	21.7%	21.4%	18.6%
総還元性向	16.6%	117.8%	-39.4%	75.6%	36.0%	70.4%	36.1%	26.4%	22.0%	52.5%	28.8%

※1 自己株取得 33百万株 59.7億円

※2 自己株取得 14百万株 27.2億円

※3 自己株取得 (2016年11月2日公表) 上限6百万株、25.0億円、期間 2016年11月4日～2017年5月31日

※4 2016年度配当は予定額で株主総会で決定されます

2017年度業績見通し(全体)

- 2017年度は新中期経営計画《Go for next 100》スタートの年
- 中長期的な持続的成長を実現するために、経営基盤強化(設備投資、人財投資、研究開発)に取り組む。
- そのため、償却費・労務費・研究開発費が増加するが、高付加価値品の拡販、原価低減アクションにより対前年度増益, 過去最高収益の更新を目指す。

2017年度 業績見通し ①

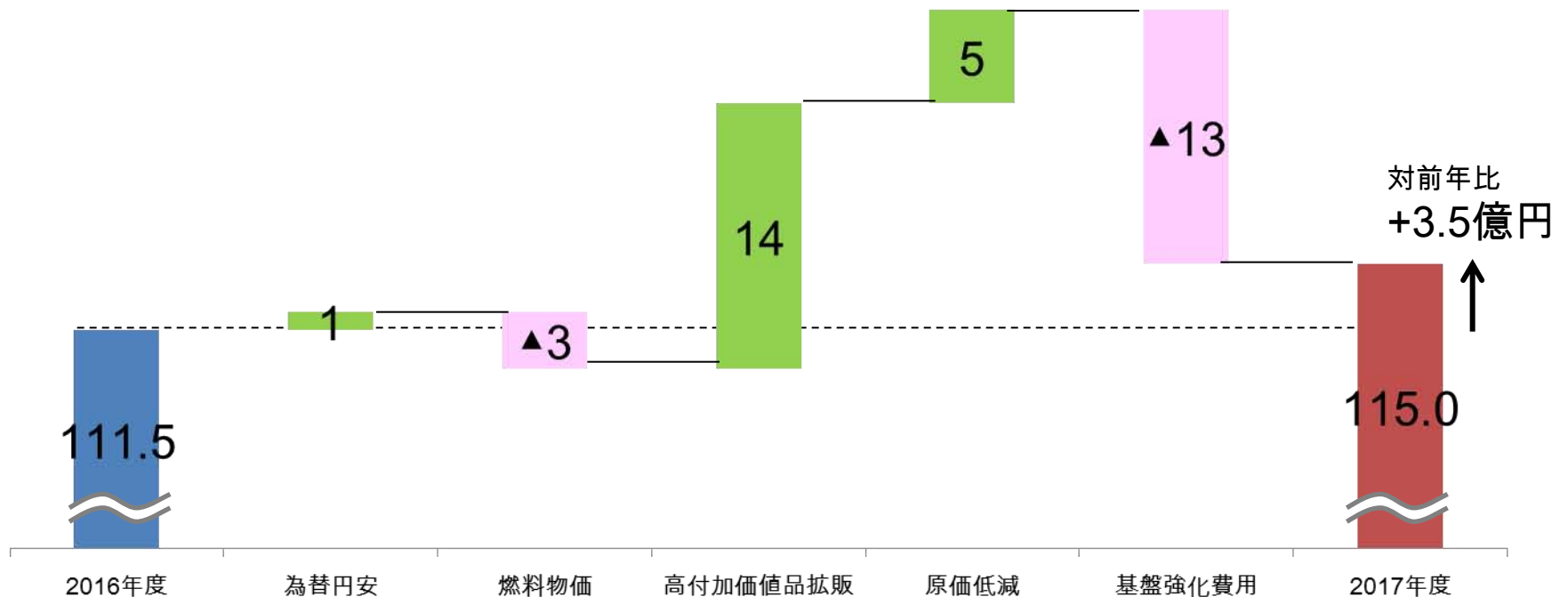
(単位 : 億円)

	2016年度 実績			2017年度 予想			(b)-(a)	2020年度 中期目標
	上期	下期	年間(a)	上期	下期	年間(b)		
売上高	408.9	424.3	833.2	424.0	426.0	850.0	16.8	1,000
営業利益	54.8	56.7	111.5	60.0	55.0	115.0	3.5	120
経常利益	52.8	61.2	114.0	60.0	56.0	116.0	2.0	120
親会社株主帰属 当期純利益	36.3	38.5	74.8	41.0	37.0	78.0	3.2	80
EBITDA			152.8			162.0	9.2	200

2017年度 営業利益 見通し(2016年度比増減)

経営基盤強化のための成長投資に注力するため償却費、研究開発費が増加するが、高付加価値品へのシフト、販売数量増をはじめとした投資効果により増益を狙う。

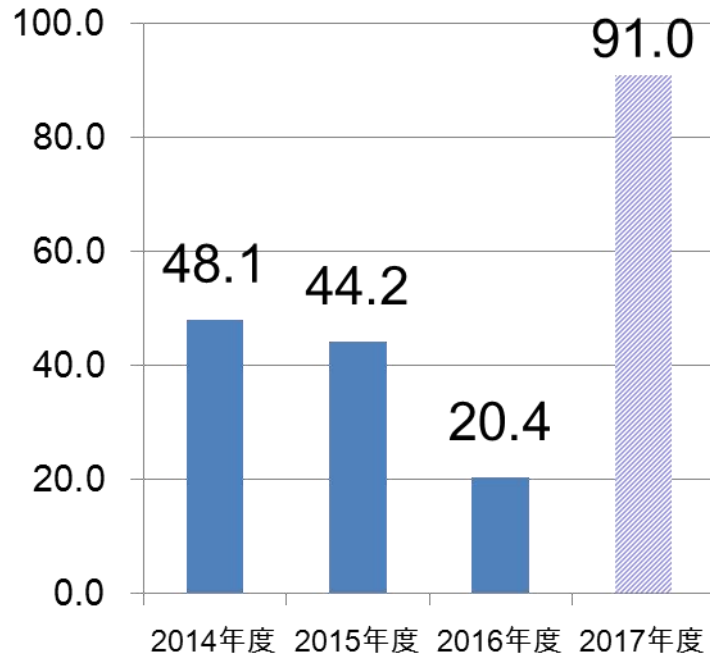
(単位 : 億円)



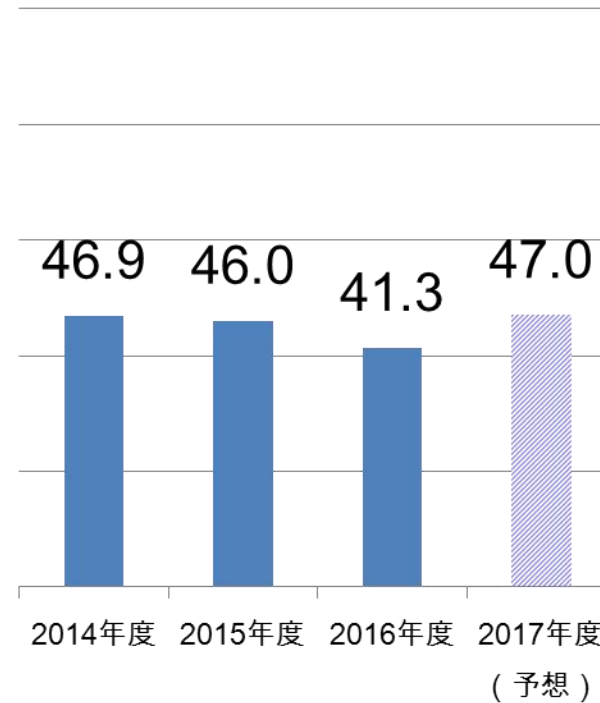
	2016年度	2017年度 予想	差 (前年同期比)
為替 [円 / 米ドル]	108.76	110.00	1.24 円安
ドバイ原油 [米ドル / BBL]	40.4	50.2	9.8 \$ 上昇

設備投資、減価償却費ならびに研究開発費

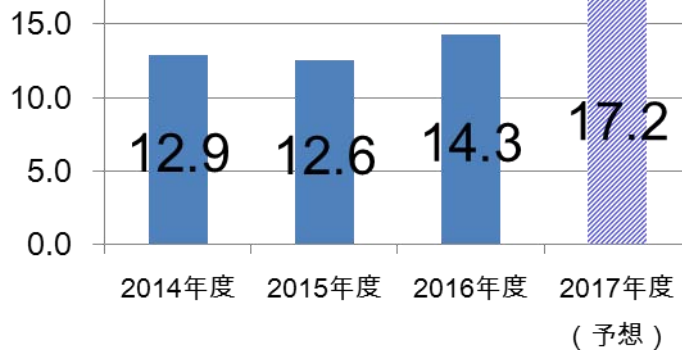
設備投資の推移 (億円)



減価償却費の推移 (億円)



研究開発費の推移 (億円) (予想)



2017年度 業績見通し ②

(単位 : 億円)

	2016年度 (実績)			2017年度 (予想)			(b)-(a)
	上期	下期	年間(a)	上期	下期	年間(b)	
売上高	408.9	424.4	833.2	424.0	426.0	850.0	16.8
繊維	25.0	24.6	49.5	25.0	25.0	50.0	0.5
原織材	126.1	140.1	266.1	138.0	137.0	275.0	8.9
機能材	68.2	74.1	142.3	71.0	77.0	148.0	5.7
設備材	109.7	112.5	222.2	109.0	119.0	228.0	5.8
ライフサイエンス	67.6	56.8	124.5	68.0	59.0	127.0	2.5
その他調整	12.4	16.3	28.7	13.0	9.0	22.0	▲ 6.7
営業利益	54.8	56.7	111.5	60.0	55.0	115.0	3.5
繊維	▲ 2.3	▲ 1.4	▲ 3.7	▲ 2.0	▲ 1.0	▲ 3.0	0.7
原織材	22.0	30.3	52.4	31.0	27.0	58.0	5.6
機能材	13.0	14.8	27.8	16.0	19.0	35.0	7.2
設備材	9.3	9.4	18.7	6.0	9.0	15.0	▲ 3.7
ライフサイエンス	17.2	10.9	28.1	15.0	9.0	24.0	▲ 4.1
その他調整	▲ 4.5	▲ 7.5	▲ 12.0	▲ 6.0	▲ 8.0	▲ 14.0	▲ 2.0

注:セグメントの組み替えを一部行っている。(機能材に一括して織り込んでいたグループ販売商社の売上高、営業利益を、今年度より、原織材、機能材、設備材の各セグメントへ展開)

2017年業績見通し(セグメント別)

【繊維】

- 収益改善に努め、赤字幅の縮小を目指す
 - 芯地
 - 高付加価値品の提案営業の強化
 - 中国市場における日系アパレルへの販売強化
 - 原糸
 - 多層構造系New CSYの販売強化
 - ロングセラー「日東紡のふきん」
 - 新商品「BELOVED PURE」の拡販
 - 芯地接着技術、着色技術などのGF部門への転用研究の加速

【グラスファイバー】

- 高付加価値品の拡販、生産性向上による収益力の強化
- 製造基盤強化の確実な実行
 - 原繊維材・機能材
 - 新溶融炉操業本格化による高付加価値品需要の捕捉
 - 国内外製造拠点運用による収益拡大
 - 設備材
 - 営業力強化による断熱材シェア拡大。
 - 海外を含めた産業資材向け製品の受注

2017年業績見通し(セグメント別)

【ライフサイエンス】

▶ メディカル

- 生産販売体制の基盤強化
- 新規開発品の拡販
- 体外診断薬をメインに大口新規顧客の獲得
- 海外新規開拓に注力。

▶ SC

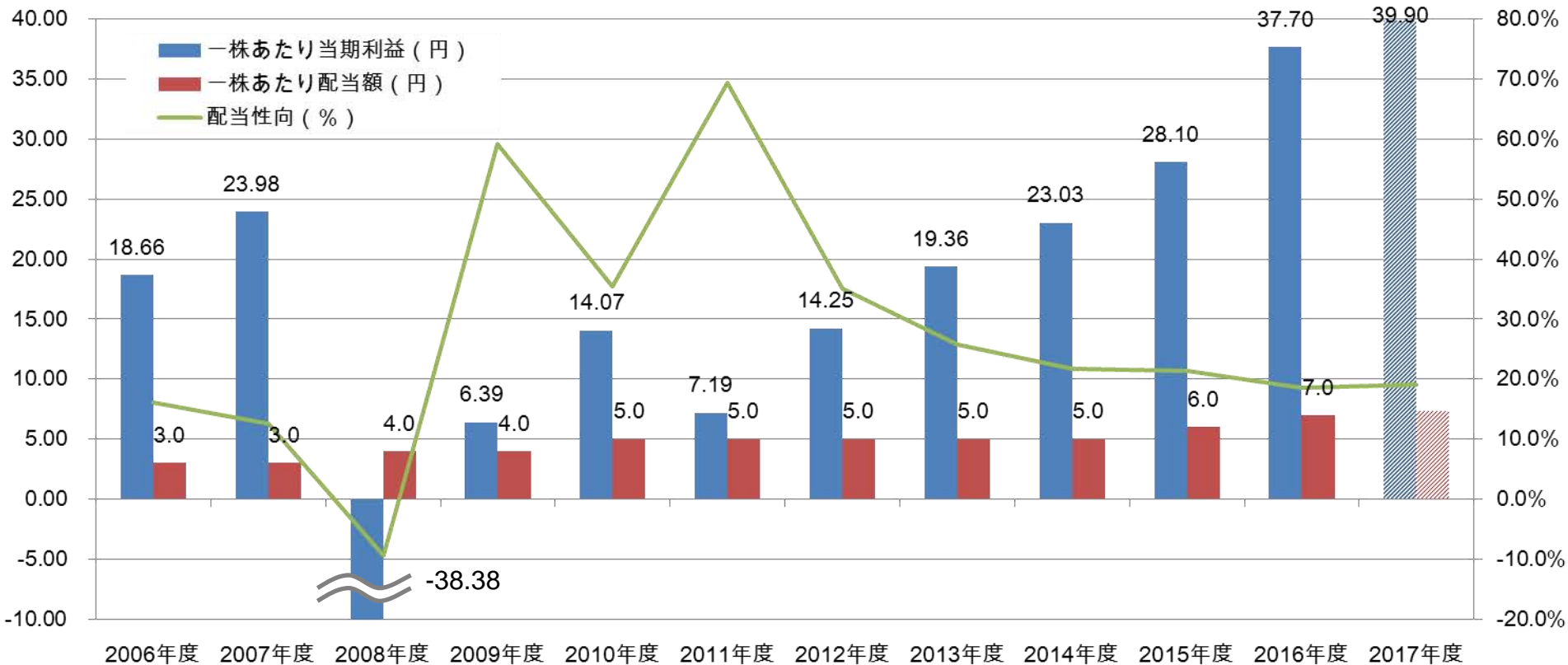
- 営業体制強化により新興国も含めた地域への販売を拡大

▶ 飲料

- 提案営業の強化による「機能性表示食品」対象の拡大。
- 新商品の開発・提案

利益配当について

- 安定的な配当の成長を基本としたうえで、配当性向（業績連動）を視野に入れ決定
- また時々の財政状況に応じて機動的・弾力的な株主還元を検討

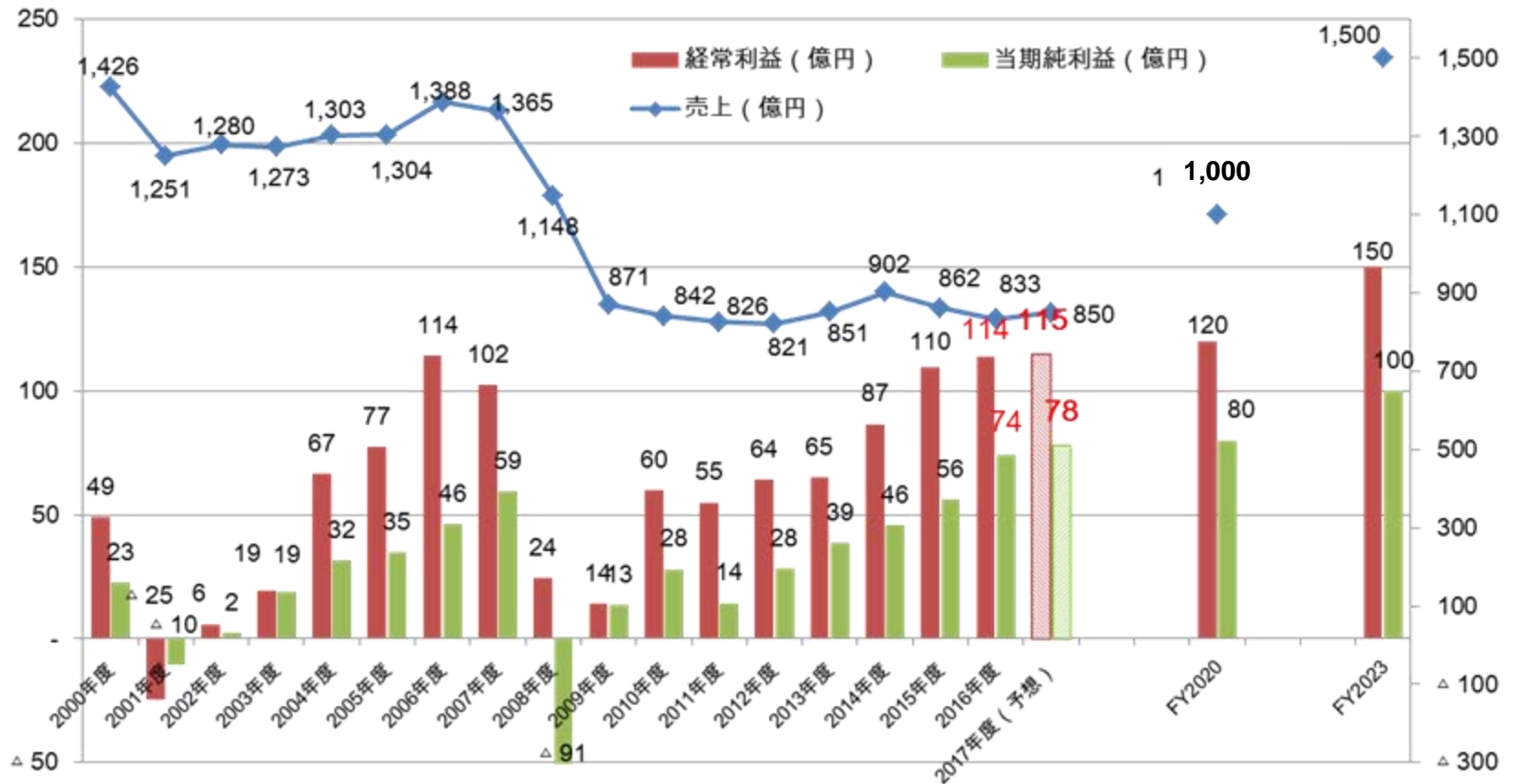


* 2016年度の配当は2017年6月28日開催予定の株主総会で決定予定です。

(予想)

** 2017年度の中間配当は一株当たり3円50銭を予定しております。通期配当は未定です。

売上高、経常利益、当期利益の推移



『日東紡宣言』 と 『事業運営の基本方針』

『経営理念』

日東紡グループは「健康・快適な生活文化を創造する」企業集団として社会的存在価値を高め、豊かな社会の実現に貢献し続けます。

『日東紡宣言』

- 日東紡グループは社会の「ベストパートナー」を目指します。(日東紡BP宣言)
- 私たちは、お客様の求めるものを絶えず追及しお客様に「安心と信頼」を誠実にお届けすることを喜びとします。また、企業活動を通じ株主・投資家・行政・地域社会等すべてのステークホルダー(社会)とともに喜びを分かち合うことを大切にします。
- 私たちは自立した一人ひとりの社員の可能性を尊び、自由闊達にアイデアを出し合いながらチームワークにより力を発揮する企業集団を目指します。
- 私たち企業グループは社員の成長が会社の成長であることを信じ、社員に成長と自己実現の機会を提供します。社員はまず第一に良き市民であり、深く考え、広く見渡し、果敢に行動します。そして粘り強くやり遂げます。

＜ 深く 広く 強く そして温かく＞

事業運営の基本方針 (2016年度～)

- 1.社内外に風通しの良い日東紡グループを目指す
- 2.研究・技術開発なくして日東紡の発展はありえない
- 3.コーポレートガバナンスの構築と不断の見直しを行う